

日 語

にほんご

5

中国人民
解放军
洛阳外国语学院

ZC414JX

8
1981

日本語読本第五冊目次

第一課 「実弾」の選挙 一

単語の解釈 八

- 一、ひとつ 三、あげる
- 二、ぜひ

四、なかば

文法の註釈 一

- 一、終助詞「い」 二、文型「.....ことになった」

三、文型「.....ものだ」及び「もの」の総括

四、副助詞「くらい(ぐらい)」の総括

第二課 夏草冬涛 一二

単語の解釈 三四

- 一、.....かかる 三、とんでもない
- 二、かかえる

四、みまう 五、どうやら

文法の註釈

三八

一、副助詞「でも」(三)及び「でも」の総括

二、文型「……てやる」

三、文型「……かぎり」

四、タルト型活用形容動詞

第三課

箸づくり

四九

単語の解釈

五八

一、……中、……中、

二、こらえる

三、我慢する

四、たとえ(たとい)

五、……だらけ

文法の註釈

六一

一、終助詞「もの」

二、終助詞「ものか」

三、副助詞「やら」

四、文型「……であろうと、……であろうと」、「……ようと……ようと」

第四課

汚職のすすめ

七一

単語の解釈

八一

二、まかりまちがう

四、おまけに

三、……つて

五、めぐる

三、……こむ

六、なつとく

文法の註釈

一、敬語の表し方「お……です」

二、文型「……にひきかえ」

八五

第五課

休日の真珠湾へ殺到する日本機（一）

九四

単語の解釈

一、せまる

四、よせる

二、見当

三、……ごし

一〇二

文法の註釈

一、新聞、雑誌及び書簡、電信などの省略

二、文語完了助動詞「り」

四、文型「……とともに」

三、文型「……にしろ」

五、文型「……ことはない」

一〇五

第六課

休日の真珠湾へ殺到する日本機（二）

一〇六

単語の解釈

一一四

一、あぶる
三、なおす

二、なれる
四、越す、越える

文法の註釈

一、文語指定助動詞「なり」
三、文型「なんと……だろう」

二、文型「……とはいえ」
四、文型「……ようにして」

一三七

第七課 母親（一）

一三八

単語の解釈

一、じかに
四、よわる

二、すなお
五、ろくに

三、どうせ

一四八

文法の註釈

一、文型「……とする」「……としたら」「……としても」

一五〇

第八課 母親（二）

一五九

単語の解釈

一、……がけ
文法の註釈

二、ひよつと

三、気が気
い

一六八

一六四

一、接続助詞「し」

三、文型「……とは別に」

二、形容詞「ない」の中止法「なし」

四、文型「……ないでいる」

第九課 生きがいというもの

……………一八〇

単語の解釈

一、のぞましい

二、あたりまえ

三、ほしい

一八七

文法の註釈

一、文型「……ことになる」、「……ことになった」、「……ことになっている」

一八九

二、文型「……にしても」

三、文型「あながち……ない」

第十課 自然と人間

……………一九九

単語の解釈

一、「する」の総括

二、気がする、気がしない

二〇六

三、ともなう

四、契機

五、……くさい

文法の註釈

一、副助詞「どころか」

二、文型「……といい、……といい」

二〇九

三、文型「……ざるをえない」

四、文型「……てならない」

五、文型「……よりほかはない」

単語の索引

.....三三六

第一課 「実弾」の選挙

「あんちゃんかね、久しぶりだな。ところで急な用事があるんだけど、ひと晩、おれの家まできてもらえないか」とF村の親戚の伯父さんから電話をもらったのは、このしの二月初旬の夜中のことであった。「急用って何だい」ときくと、「心配ごとでないんだからよ。ぜひたのむな。たまにはな、生れた村に帰ってみるものだ。」と五十を少し超した伯父さんにたしなめられて電話がきれた。そういえば、すぐ近くにいながら、ふるさとも随分長い間帰っていないことに気がついて、伯父さんの言う日にF村へいつてみようと思った。F村は、奥羽本線S駅からバスで四十分ほど山奥にはいったところにある山村だ。このF村はわたしのふるさとだったが、いまから十四年前に一家をあげて隣の能代市にひっこしてきていた。しかし親戚がいるので婚礼とか葬儀があると、両親はF村にいつているが、わたしには特別の用事もないので、ここ五年ぐらいはF村に帰っていないかった。そこへ親戚の伯父さんから電話がかかってきた。

伯父さんから電話があつて五日後の夕方、わたしはF村に向かった。S駅まで汽車

でいってからハイヤーにのった。晩に伯父さんの家につくと、一〇人近い人たちが背広姿で集まっていた。その人たちというのが二十数年前の中学時代のわたしの同級生たちであった。

「伯父さん、急な用事って何だい……」

ときくわたしを「さあ、さあ」と上座にすわらせると、その伯父さんはこう「演説」を始めたのである。

「実はみなさんにきていただいたのは外でもありません。うちの同じ分家のあんなちゃん、あなた方の同級生でもあるあんなちゃんが、こんど東京の出版社というところから本を出したのですが、新聞にも出たからご存じのことと思います。同じ分家のわたしらとしても非常に名誉なことなので、祝賀会というものをやることになったわけです。では今晚はひとつ、ゆっくりやってください。」

わたしはびっくりした。村を出るときには「倒産して能代に逃げていった」とカゲ口をいわれていたのがようやく親戚たちも認めてくれたのかと思うと嬉しくなった。久しぶりにあった同級生たちとその晩は大いにのみ、F村からわたしの家までのハイヤー代五八〇〇円も払ってもらって意気揚々とわが家に帰ってきた。

ところが、もらってきた菓子箱をあけていた妻が、とんきような声をあげて白い封筒をのべてよこした。その中には折り目のつかない五千円札が一枚入っているのだ。

る。それをみたたん、わたしの酔いはさめた。わたしの本の祝賀会という形で、四月の村議会選挙にでる伯父さんの選挙運動に利用されたことに、わたしはそのときになってきがついたのだった。金のはいった、別の人に渡す予定の菓子箱をまちがってわたしに渡したことによって――。

頭にきたわたしは、さっそく電話をいれた。伯父さんはわたしにも金をわたしたことに気がついて、一寸だまっていたが、……すぐに答えていった。「そうおこるな。金をもらって怒るのはお前ぐらいのものだ。いまは飲ませ食わせだけでは、票は固まらないんだよ。金をつかませなくてはだめなんだ。かねを……。」

それから「こんなことで怒るようでは、お前も青いな」と、だめ押しをして電話をきった。酔いがさめたわたしは単純な自分にあきれると同時に、古だぬき伯父の手腕に半ば感心しながら、床についた。

四月下旬になった。二十七日深夜のラジオで親戚の伯父さんが村議選に当選したことをききしめた。わたしは「やれやれ」と安心した半面、伯父さんの得意そうにしてゐる顔が思い出されて「あんちくしょう」と腹が立った。

(一九七五、五、三〇「朝日ジャーナル」)

単語の註釈

実弾〔じつだん〕

選挙〔せんきょ〕

あんちゃん〔兄ちゃん〕

久しぶり〔ひさし振り〕

急〔きゅう〕

親戚〔しんせき〕

F村〔エフそん〕

初旬〔しよじゅん〕

急用〔きゅうよう〕

ぜひ〔是非〕

心配ごと〔しんぱい事〕

たまに〔偶に〕

(名)

(名、他、サ)

(名)

(名)

(形动)

(名)

(名)

(名)

(名)

(名、副)

(名)

(副)

实弾 (本文指贿选の现钞)

选举

〔兄さん〕の俗语，对自己的哥哥或对年轻人一种亲密的称呼。

哥哥，哥儿，大侄子

隔了好久，好久不见

急迫

亲戚，亲属

F村

上旬

急事

务必，一定

担心的事儿

偶尔，有时候

超す〔こす〕
たしなめる〔審める〕
ふるさと〔古里・故里〕
奥羽本線〔おおうほんせん〕

(他、五)
(他、下二)
(名)
(名)
(名)

超过
责备
故乡
纵贯「裏日本」的一条从福島到青森的国有铁路。它连结了福島、山形、秋田、青森四个县。

山奥〔やまおく〕
あげる〔挙げる〕
能代市〔のしろし〕
ひっこす〔引越す〕
婚礼〔こんれい〕
葬儀〔そうぎ〕
特別〔とくべつ〕
ハイヤー
背広〔せびろ〕
さあ
上座〔かみざ・じょうざ〕

(名)
(他、下二)
(地名)
(自、五)
(名)
(名)
(形动)
(名)
(名)
(名)
(感)
(名)

深山
举，全，都
能代市〔在秋田县〕
搬家
婚礼
丧礼、葬礼
特别
包租汽车
西装
(用于劝诱、催促时)请，哎呀
上座

実は〔じつは〕

分家〔ぶんけ〕

同じ分家〔おなじぶんけ〕

出版社〔しゅっぱんしゃ〕

ひとつ〔一つ〕

倒産〔とうさん〕

カゲ口〔陰ぐち〕

ようやく〔漸く〕

意気揚揚〔いきようよう〕

菓子箱〔かしばこ〕

とんきょう〔頓狂〕

のべる〔延べる〕

よこす〔寄越す〕

折り目〔折りめ〕

酔い〔よい〕

さめる〔醒める〕

村議会〔そんぎかい〕

(接)

(名)

(名、連)

(名)

(副)

(名、自、サ)

(名)

(副)

(形動)

(名)

(形動)

(他、下二)

(他、五)

(名)

(名)

(自、下二)

(名)

實際上、说实在话

另立门户

本家、同宗

出版社

稍微

破产、倒闭

暗中说坏话，背后说坏话

①渐渐，②好容易

扬扬得意

糕点盒子

突然疯狂，异乎寻常

展开，放开

①寄来，②递给，交给

折痕

醉酒

(睡)醒，(酒)醒

村议会

別「べつ」

予定「よてい」

頭にくる「あたまに来る」

怒る「おこる」

票「ひょう」

青い「あおい」

固まる「かたまる」

だめ押し「駄目押し」

単純「たんじゅん」

あきれる「呆れる」

古ダヌキ「ふる狸」

手腕「しゅわん」

半ば「なかば」

感心「かんしん」

床につく「とこに付く」

下旬「げじゅん」

(名)

(名、他、サ)

(连)

(自、五)

(名)

(形)

(自、五)

(连)

(名、形动)

(自、下一)

(名)

(名)

(名)

(名、自、サ)

(连)

(名)

別(的)，另外(的)

预定

恼火

生气

选票

青的；不成熟的，幼稚的

凝固

(为了牢靠，保险起见)再叮嘱

一遍，又罗嗦一句

单纯

吃惊，惊讶，哑口无言

老狐狸，狡猾的人

手腕

一半

佩服

就寝

下旬

深夜「しんや」
やれやれ

(名)
(感)

深夜

(在欢喜、放心、疲倦、困惑等
时用) 哎呀！可松了一口气，可放
了心

半面「はんめん」

(名)

另一方面

得意「とくい」

(名、形动)

得意

あんちくしょう「あん畜生」

(名、连)

这个坏蛋

朝日ジャーナル「あさひジャーナル」

(名)

朝日杂志(朝日周刊)

単語の解釈

一、ひとつ「一つ」(副)

(一) 稍稍，一点，一会儿

多在表示请求、劝诱、商量时用。

ひとつお願いします。

ひとつ今晚は大いに飲もう。

まあ一つ腰かけて腰かけて(下さい)。

じゃ一つこっちを一人ずつ紹介しますかね。

(二) ひとつ、ひとつ (ひとつびとつ) 一个个地

一つ一つ丁寧に調べました。

先生は熱心に一つ一つ教えてくれた。

二、ぜひ「是非」

(一) (名词) 「是」与「非」

十五歳になれば、もう物事の是非がわかるはずだ。

(二) (副词) 一定 多在表示请求、命令等时使用。

ぜひおいで下さい。(きて下さい)

この本はたいへんよい本だからぜひ読んでみなさい。

ぜひとも(副) 務必，无论如何 它与「ぜひ」基本相同，只是语气稍

强一些。

今度こそぜひとも参加しなければならない。

ぜひともきて下さい。

三、あげる(他、下)

(一) 向上举，提高，举出

手をあげてあいさつした。

顔をあげなさい。

月給をあげることになっている。
例をあげて説明する。

(二) 煎、炸

てんぷらをあげる。

あぶらであげた魚はおいしいです。

(三) 用其全部

全力をあげて試合に参加した。

国をあげて国慶節をいわう。

一家をあげて村を逃げた。

四、なかば「半ば」(名)

(一) 一半 有名词、副词的双重用法

作文は半ばまでできています。

なかばあそびのつもりで試験をうけた。

半ば無意識的にでかけた。

(二) 中间、半路

五月のなかばに試験をおこなう。

お話のなかばで席を立てはよくありません。